

市民の皆様から頂いた意見、提案等についての回答（個別検討会議 福祉分野）

- ※ 皆様から頂きました、意見等に対する今後の対応について、回答しています。
- ※ 計画の位置づけ項目の、「総合戦略(27年度中策定)・「第6次総合計画(28年度中策定予定)」の欄に○印があるものについては、反映する予定です。
- ※ 計画の位置づけ項目の、「公助・共助・自助」については、施策、事業を実行する場合に、誰が主体的に取り組むか示したものです。
- ※ 皆様から頂いた、ご意見について、緊急性、効率性、有効性等の観点で整理しました。ご意見等を否定するものではありませんので、ご理解よろしくお

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	市の考え				
		回 答	計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	学校（学部）の誘致や、資格の取れるような専門学校（例：大原専門学校）をつくる。日田には、既存の大学として別府大学の分室があるが、今は認知度が低いので、充実させてはどうか。人材育成のための場所の確保（廃校）。小学校跡地の利用について大学の合宿地とする。津江方面にでも林業関係の専門学部の誘致をしてはどうか。産業、特に林業に特化した技能学校や造園などの職業訓練学校はどうか。	本市の高等教育機関は看護師の専門課程のみのため、多くの若者が市外に転出しており、この現状を少しでも改善するため、産業界への波及効果と若者の定住・移住を目指し、職業系の高等教育機関等の誘致に努めます。	<公助> 検討する	—	○	企画課
個別検討会議 福祉分野	保育料の無料化。	保育料については、保護者の経済的負担の軽減を図るため、国が定める額の7割相当の額に軽減している一方、多子軽減制度などの制度に加え、ひたっ子にこにこ保育支援事業や新制度に伴う利用者負担(保育料)の激変緩和措置など更なる保育料の軽減対策を実施しております。	<公助> 取り組んでいる	○	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	第1子への補助制度の創設。出産一時金の支給。	第1子への補助制度の創設について、現行では、多子世帯への経済的負担の軽減を主体として行っており、現時点では創設の考えはありません。 保育料の無料化について、現行の保育料は、保護者の経済的負担の軽減を図るため、国が定める額の7割相当の額に軽減している一方、多子軽減制度などの制度に加え、ひたっ子にこにこ保育支援事業での減免や新制度に伴う利用者負担(保育料)の激変緩和措置など更なる保育料の軽減対策を実施しています。 また、国においては、幼児教育無償拡大に向けた取り組みが予定されており、本市においても、ひたっ子にこにこ保育支援事業の第2子半額免除を全額免除と事業の拡充を予定しています。 出生一時金の支給については、現時点考えていません。	<公助> 実施しない	—	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	再就職時の総合支援窓口の設置の検討。ハローワークで子育てと再就職に関する相談もできるとよい。	総合支援窓口の設置やハローワークでの相談業務については、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組みの推進を図るため、今後関係機関と連携し検討します。	<公助> 実施しない	—	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	サービスの周知をもっとしたほうがよい。（サービスの内容を知らない）。病後時保育を充実してほしい。（公的・民間）	保育サービス事業の周知については、「ひたっ子子育てガイドブック」をはじめ、市報やホームページなどで周知を行っておりますが、新たにモバイルでの情報発信などの情報の周知に取り組む予定です。 病後児保育事業については、保育ニーズに応じた実施個所の拡大や受け入れ体制など、施設整備を含めてさらに検討を行います。	<公助> 取り組んでいる (既存事業見直し)	○	—	こども未来室 健康保険課

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	回 答	市の考え			
			計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	民間にも周知して、アピールをうまくしていく必要がある。育児休業制度を導入した企業への補助制度。子育て応援企業、働く女性を応援している企業をホームページや市報等に掲載し、企業の取り組みをPRする。	育児休業制度等を記載した就業規則を導入する企業を支援するとともに、ホームページや市報等でワーク・ライフ・バランスの取組を紹介するなど、積極的に啓発に取り組みます。	<共助> 新規事業	○	—	商工労政課
個別検討会議 福祉分野	医療費の無料化の取組に対し、その分を他に活用(移住者支援など)。医療費が無料だから、すぐに医療機関を受診するなど甘えてる人が多い。(無料でなくても個人負担でもよい)。医療費無料でなくてもよい。(夜間割高でもよい)	医療費の無料化への取り組みについては、子どもの疾病の早期発見と子育て家庭の経済的支援の充実を図るために行っており、現行の助成内容を継続するとともに、平成28年4月診療分から小・中学生の市内通院費(保険適用分)の窓口負担の無料(現物支給)化を予定しています。しかしながら、医療機関へのコンビニ受診の増加がさらに懸念されることから、こどもの適正受診の啓発事業(広報、チラシ、ホームページ、救急ハンドブックなど)を実施し、子どもの病気への理解と、適正な受診の励行を図っていきます。	<公助> 新規事業	○	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	コンビニ受診は受ける人のマナーの問題。母親教育や教育・保育施設での啓発。市民への周知の仕方を検討する必要がある。済生会HPにて講演会の内容が示されているが、一般の人へも聞いてもらえるように周知が必要では。住民の人(応援隊)との意見交換の場があると良い。親の教育やレベルアップ(医療勉強会の周知)。救急医療等に関する講習会を開催し、病気や救急ハンドブックの活用の仕方、医療費のしくみ等を理解してもらう。(毎年定期的に実施)。KCVを活用しコンビニ受診をやめるための病院受診の仕方等を啓発する。救急医療について、ホームページにわかりやすく掲載する。受診の仕方についての周知は、チラシではなく保存できる形態のものにする。	様々な機会を捉えて、病院の受診(コンビニ受診の弊害等)について啓発を行います。子育て支援に関する情報の周知方法について、携帯端末等を使用した周知方法を導入するとともに、済生会等が開催する医療勉強会や講演会などに保護者の参加を呼びかけ、保護者自身が知識や判断力を身につけられるよう情報提供を行います。	<公助> 既存事業見直し	○	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	小児科医の確保策の検討。小児科の新規開業の助成	小児科医確保については、現在おおいた地域医療支援システムによって、大分大学から済生会日田病院へ小児科医1名が派遣されています。小児科等の新規開業の助成については、今後検討していきます。	<共助> 新規事業	○	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	現実的に難しいのではないかと。済生会に夜間診療専門があると良いのではないかと。また、一方では、本当に必要なのか。あればあったほうが良いのだが、採算性が必要。現在ある「済生会日田病院」のあり方について再検討	総合病院や済生会日田病院での夜間診療所の開設は採算性から見て困難であります。また、済生会日田病院は地域の中核病院であり、今後も必要に応じ随時申し入れ等を行っていきます。	<共助> 実施しない	—	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	市内の病院数 50位、歯科は、30位。日向市では、小児科・産婦人科医院には助成金を出している。障害児クラスの職員や施設に対しての手当の検討はできないか。小児科医の誘致。必要性について分析する必要がある。	小児科等の確保については課題と捕らえており、今後検討していきます。教育・保育施設での障がい児の受け入れについては、受入児童数に応じて補助金の交付を行っています。	<公助> 新規事業	○	—	こども未来室 健康保険課

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	市の考え				
		回 答	計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	チェックリストだけでは、親の理解がない場合は、受診につながらない。園から市に情報発信をするが、発達相談会を勧めることはできない。	乳幼児健診(4か月・7か月、1歳6か月、3歳児)の後に、精密健診を実施しています。5歳児発達相談会は、3歳児以降の集団生活の中で、発達障害による周囲との関係が築きにくい等が表れてきた時期に実施するものであります。現在も、気になる児が相談会に漏れることのないよう幼稚園・保育園の協力をいただいておりますが、今後はより良い方法を考えます。	<公助> 取り組んでいる	○	—	こども未来室 健康保険課
個別検討会議 福祉分野	結婚祝い金制度の創設。あればうれしい。結婚資金がなくて結婚に踏み切れない人にとっては良い。市内で使える商品券を渡す。仲人奨励金制度	「出会いの場」を創出する協議会等への支援を考えております。現時点では、商品券や奨励制度を市が創出することは考えておりません。	<公助> 実施しない	—	—	企画課
個別検討会議 福祉分野	出会いの場をセッティングする。カップリングパーティー開催事業。街コン開催事業。婚活イベント開催事業。他市との交流事業の開催	他市、他団体の情報収集に努め、「出会いの場」を創出する協議会等に対して支援します。	<共助> 新規事業	○	—	企画課
個別検討会議 福祉分野	起業する人への支援（企業だけの優遇ではなく個人への支援も必要。空き家対策…駅前店舗の支援（期間が短い、2～3年間ほしい）、家賃が高い）。農林業をしたい人…2～3年間訓練をして農地や住宅を格安で提供。	新規就農者の研修として「ファーマーズスクール研修事業」を計画しています。併せて、最長2年間の研修期間中、青年就農給付金（準備型）の給付が受けられる制度があります。	<公助> 新規事業	○	—	農業振興課
個別検討会議 福祉分野	中津、日田道路の早期完成	大分県（日田土木事務所）、九州地方整備局に対して、引き続き、日田山国道路(中津日田道路)の早期完成に向けた整備要望を行います。	<公助> 取り組んでいる	—	○	都市整備課
個別検討会議 福祉分野	プロデュースなどをプロに任せてはどうか。玩具メーカーなどと協力して室内アスレチック施設を作ってみてはどうか。市内にある公園の遊具、利用ニーズに合わない遊具プロデュースしてもらったらどうか。自然公園の整備	竹田公園のリニューアル工事では、公園専門のコンサルタント会社が設計を行っています。また、自然公園の整備としては、田来原美しい森づくり公園を建設中です。今後は、公園施設の長寿命化を進めながら安全で安心に利用できる公園づくりを進めます。	<公助> 実施しない	—	—	都市整備課
個別検討会議 福祉分野	交通網を更に整備し、JR等の高速化を図り通勤圏内とする。日田は九州の中心で便利。地の利を生かす。アパートの空き家の利用はできないか。家賃や駐車料金が低い。（浮羽市は比較的安いので、浮羽に住みたいとの話を聞く。）駐車場の整備や通勤者への補助。高速バスの高速化（ノンストップバス）	JR九州とバス会社に増便・時間短縮等積極的に働きかけ利便性の向上を促します。アパートの貸し出しは民間事業なので、市は介入しません。また、事業所から通勤手当などもあるため、通勤の補助は考えていません。	<公助> 実施しない	○	—	地域振興課

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	市の考え				
		回 答	計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	インターネット、SNS等で日田の良さをアピールする。市のホームページの改革（内容が見づらい）専門家に依頼。イベント情報など、フェイスブックの活用。羽田小・桜竹小跡地など、利用促進を集約して紹介するところがほしい。日本一のアピール（暑さ、歴史、小鹿田焼、古き日本の趣をもつ街、三隈川など）。日田の水、自然は世界にアピールできる。世界発信すべきではないか。ネットに情報を挙げ（アピール）をして、アクセスランキングを競う等のイベントを行ったらどうか。（よその人に日田のいいところを見つけてもらう）。日田の魅力を引き出す、アピール、宣伝、テレビコマーシャルの実施。日田市は良い意味で田舎である事を理解し、田舎の子育て（自然の中で）を売りにする。	日田市公式フェイスブックを昨年10月15日に開設し市政情報の発信に取り組んでいます。また、市の公式ホームページについても、使いやすく利便性の高いサイトとなるように取組みます。	<公助> 取り組んでいる （既存事業見直し）	○	—	情報統計課
個別検討会議 福祉分野	現状として、賃金水準が低い。	給与水準の引き上げのためには、企業の経営が上向くことが必要であり、そのための相談体制の充実に取り組まします。	<共助> 取り組んでいる （既存事業見直し）	○	—	商工労政課
個別検討会議 福祉分野	ショッピングモールの誘致	市外資本による大型ショッピングモールの進出は、市内資本の流出につながるため、現状では、誘致の考えはありません。しかし、企業から進出の意向があれば、商工団体や商店街等の関係機関と協議しながら進めます。	実施しない	—	—	商工労政課
個別検討会議 福祉分野	家業を継いだら100万円。日田市で起業したら1,000万円出す。（インパクトのある政策）	事業承継に伴うリフォームへの支援制度や、創業に必要な経営・財務・販路開拓・人材育成の知識を習得した創業者を支援する融資制度など、経営計画に基づいた施策を講じます。	<公助> 実施しない	—	—	商工労政課
個別検討会議 福祉分野	起業する人への支援（企業だけの優遇ではなく個人への支援も必要。空き家対策…駅前店舗の支援（期間が短い、2～3年間ほしい）、家賃が高い）。農林業をしたい人…2～3年間訓練をして農地や住宅を格安で提供。	既に商工支援団体や金融機関で創業に必要な経営・財務・販路開拓・人材育成の知識を習得するセミナーを開催しているが、創業者を支援する融資制度の拡充を図ります。	<共助> 取り組んでいる （既存事業見直し）	○	—	商工労政課
個別検討会議 福祉分野	企業誘致。北九州市では、デパートの後（ワンフLOWER）に200～300人程度のコールセンターを誘致している。大きな建物の造らなくても、学校跡地の利用でもよい。IT企業の誘致の検討。働きやすい（産後も働けるとか、育休、フレックスタイムの導入）企業環境の支援が必要。起業者が金融機関からの融資を受けやすい環境整備を行う。	日田市企業立地促進条例の立地企業指定用件の緩和や優遇策の改善を行い、企業にとって少しでも進出しやすい条件整備を行う。コールセンターについては、学校跡地や空きスペースを候補地として積極的に活用します。	<公助> 取り組んでいる （既存事業見直し）	○	—	企業立地推進室

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	市の考え				
		回 答	計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	インターネット、SNS等で日田の良さをアピールする。市のホームページの改革（内容が見づらい）専門家に依頼。イベント情報など、フェイスブックの活用。羽田小・桜竹小跡地など、利用促進を集約して紹介するところがほしい。日本一のアピール（暑さ、歴史、小鹿田焼、古き日本の趣をもつ街、三隈川など）。日田の水、自然は世界にアピールできる。世界発信すべきではないか。ネットに情報を挙げ（アピール）をして、アクセスランキングを競う等のイベントを行ったらどうか。（よその人に日田のいいところを見つけてもらう）。日田の魅力を引き出す、アピール、宣伝、テレビコマーシャルの実施。日田市は良い意味で田舎である事を理解し、田舎の子育て（自然の中で）を売りにする。	既存の観光誘客宣伝事業、新規のインバウンド推進事業で事業実施を検討します。	<共助> 検討する	○	—	観光課
個別検討会議 福祉分野	子どもの時に日田のいいところ（教育・咸宜園など）を体験させる。高校生を対象とした、屋形船乗船など、地元の学生に地元の良さを体験してもらい、外部に情報発信を行う。総合教育の推進	学校や地域の特色を生かした「総合的な学習の時間」の体験学習や学校の教育課程外で行っている「土曜教室」「日本遺産子どもガイド」等の取組を継続します。	<公助> 取り組んでいる	○	—	学校教育課
個別検討会議 福祉分野	義務教育に力を入れることも必要ではないか。たとえば、大分大学の付属小中学校などや、私立の学校があるといいのでは（教育熱心な人が集まり、教育の底上げができるのでは）	学力向上対策により、現在の公立小・中学校の体制でも効果が上がってきており、今後の教育の底上げも可能である為、私立小・中学校の誘致は行いません。また、通学時間が長くなったり、安全面や生徒の体力・精神面での負担も大きくなる事から、学校選択制は実施しません。	<公助> 実施しない	—	—	学校教育課
個別検討会議 福祉分野	学校（学部）の誘致や、資格の取れるような専門学校（例：大原専門学校）をつくる。日田には、既存の大学として別府大学の分室があるが、今は認知度が低いので、充実させてはどうか。人材育成のための場所の確保（廃校）。小学校跡地の利用について大学の合宿地とする。津江方面にでも林業関係の専門学部の誘致をしてはどうか。産業、特に林業に特化した技能学校や造園などの職業訓練学校はどうか。	関係機関と連携しながら検討します。しかし、市単独では難しいので、県と十分な連携のもと、可能性を探ります。	<公助> 検討する	—	○	林業振興課
個別検討会議 福祉分野	起業する人への支援（企業だけの優遇ではなく個人への支援も必要。空き家対策…駅前店舗の支援（期間が短い、2～3年間ほしい）、家賃が高い）。農林業をしたい人…2～3年間訓練をして農地や住宅を格安で提供。	担い手の実態調査を行い検討します。国・県と連携しながら人材育成を図っていきます。	<公助> 検討する	—	○	林業振興課

意見集約の場	意見（取組内容や方法）	市の考え				
		回 答	計画への位置づけ			
			施策・事業化	総合戦略	第6次総合計画	主管課
個別検討会議 福祉分野	学校（学部）の誘致や、資格の取れるような専門学校（例：大原専門学校）をつくる。日田には、既存の大学として別府大学の分室があるが、今は認知度が低いので、充実させてはどうか。人材育成のための場所の確保（廃校）。小学校跡地の利用について大学の合宿地とする。津江方面にでも林業関係の専門学部の誘致をしてはどうか。産業、特に林業に特化した技能学校や造園などの職業訓練学校はどうか。	大学等の誘致については、過去に取り組んできた経緯があるが、児童生徒が減少している状況では、難しいと考えます。また、別府大学については、市の施設を借りて、歴史文化講座を年6回行っている程度であり、今後の利用拡大については難しいと聞いているが、可能性を探ります。	<公助> 検討する	—	○	文化財保護課
個別検討会議 福祉分野	2世帯住宅を建てたら1,000万円出す。	資金の支援で解決する事柄とは考えていません。	実施しない	—	—	地域振興課
個別検討会議 福祉分野	インターネット、SNS等で日田の良さをアピールする。市のホームページの改革（内容が見づらい）専門家に依頼。イベント情報など、フェイスブックの活用。羽田小・桜竹小跡地など、利用促進を集約して紹介するところがほしい。日本一のアピール（暑さ、歴史、小鹿田焼、古き日本の趣をもつ街、三隈川など）。日田の水、自然は世界にアピールできる。世界発信すべきではないか。ネットに情報を挙げ（アピール）をして、アクセスランキングを競う等のイベントを行ったらどうか。（よその人に日田のいいところを見つけてもらう）。日田の魅力を引き出す、アピール、宣伝、テレビコマーシャルの実施。日田市は良い意味で田舎である事を理解し、田舎の子育て（自然の中で）を売りにする。	学校跡地は、整備の目的が異なるため、一元的な集約は考えていない。なお、6館ある多目的交流館については、市でも紹介しています。	<公助> 実施しない	○	—	地域振興課
個別検討会議 福祉分野	文化的な施設。特に、美術館、アートに関する場所や環境が無い。世界的な美術館をつくったらどうか。博物館、小鹿田など今あるものの活用（新しく施設を作らない）	現在の中央公民館を、美術館や博物館等の機能を持つ複合文化施設にリニューアルし、社会教育の拠点と位置づけます。	<公助> 実施しない	—	○	企画課
個別検討会議 福祉分野	文化的な施設。特に、美術館、アートに関する場所や環境が無い。世界的な美術館をつくったらどうか。博物館、小鹿田など今あるものの活用（新しく施設を作らない）	現在、整備している文化施設完成後、継続して観光誘客宣伝事業の中で情報発信を行っていきます。	<共助> 取り組んでいる （既存事業見直し）	○	—	観光課